

輸血部ニュース

広島大学医学部附属病院輸血部 発行：高田 昇

編集：藤井輝久

No.40 2002年3月13日 TEL: 082-257-5580,5582 内線：2940,2942

FAX: 082-257-5584

「輸血部医師による自己血採取」についての注意事項

本院では、年間約 650 単位の自己血採取があり、その 90%強が廃棄されずに使用されています。これは本院の年間赤血球輸血総量の約 9%にあたります。

1998 年より輸血部医師による自己血採取が始まり、現在院内の総採取量の 90%近くとなっています。

輸血部医師による自己血採取を開始するにあたって参考資料 1 のような実施要項を作り、業務運営会議（旧医長会議）にて承認され、現在もこれに従って運用しています。

運用を行う上で、様々な問題点が生じ問い合わせを受けることがあります。その点について、輸血部の見解あるいは臨床科へのお願いを述べます。

1. 採取時の呼び出しについて

輸血部の採血室は手狭で、患者さんにお待ち頂くベンチさえありません。採取の順番が来ましたら輸血部（内線 2945）からご連絡を差し上げます。それまでは各科の病室・外来で患者さんに待つて頂くようお願いします。

前の患者さんの採取が終わらずに、一旦病室にお帰り頂いたケースがあります。

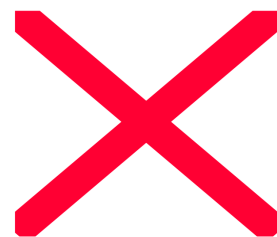
2. 自己血採取の申し込みについて

自己血採取の申し込みはホスト端末からのオーダーインではありません。必要書類を記入の上、担当医師が直接輸血部受付で申し込みして下さい。

自己血採取を行う患者さんは必ず事前に輸血登録検査を実施して下さい。未実施の場合には、輸血部門の製剤管理システムに自己血製剤を入力できません。

3. 外来患者さんの自己血採取

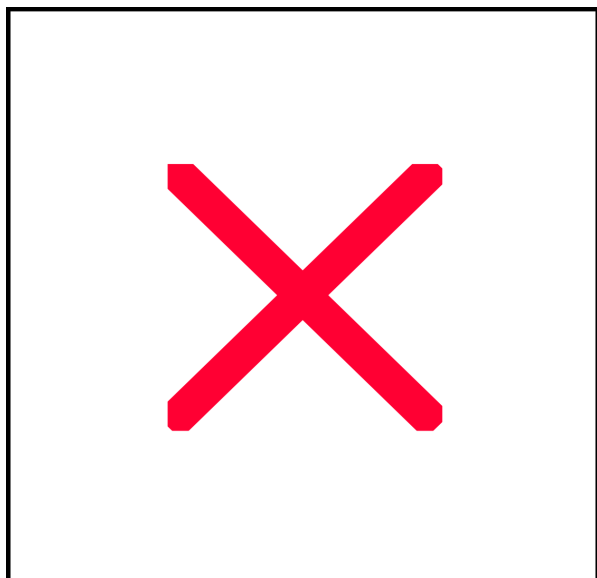
輸血部では外来患者さんも自己血採取を行っています。採取だけに来院される場合でも、必ず再診手続きを行ってください。採取だけでは医療費は算定されません



が、採血前には問診や血圧測定などの診療行為がありますし、採取中に血管迷走反射などの副作用が出た場合には薬剤を投与することもあります。再診手続きを行っていないと、手続き上患者さんにご面倒をお掛けすることになります。

4.カルテについて

輸血部の採取医師は患者さんの主治医ではないので、患者さんの状態を正確に把握していません。特に合併症の有無により、採取を断念せざるを得ない場合があります。ホスト端末から詳細な患者情報を確認することはできますが、まだカルテには及びません。ですから採取日には事前にカルテを輸血部受付に持って来て頂くようお願いいたします。なお返却については、輸血部職員が行いますので、ご了解下さい。



お知らせ：

輸血療法に関する シンポジウム

～安全で有効な輸血療法を求めて～

この度血液製剤の有効、安全かつ適正な使用について今後一層推進していくため、病院関係者の方々を対象にシンポジウムが下記の要項で開催されることになりました。

お時間のある方は是非ご出席ください
ますようご案内申し上げます。

記

日時：2002年3月18日(月)

午後3時～5時

場所：鯉城会館 5F サファイア

広島市中区大手町1-5-3

演題：

1 「輸血療法のコツ、どんな時に何を選ぶか」

広島大学医学部附属病院輸血部長

高田 昇先生

2 「廃棄血防止に向けての取り組み」

国立病院呉医療センター内科医長

西浦哲雄先生

3 「広島県の血液事情について」

広島赤十字血液センター所長

大田信弘先生

座長；広島大学原医研内科教授

木村昭郎先生

主催：社団法人広島県医師会、社団法人広島県病院協会、広島県